

# 第17回 大和北道路有識者委員会

## 議 事 要 旨

1. 日 時 平成15年10月3日(金) 15:00~16:30

2. 場 所 奈良県新公会堂 レセプションホール

### 3. 出席者

委員長	近畿大学経営学部商学科	教授	齋藤 峻彦
委員	京都大学大学院工学研究科	教授	飯田 恭敬
	京都大学大学院工学研究科	教授	小林 潔司
	奈良女子大学	名誉教授	近藤 公夫
	(財)元興寺文化財研究所	所長	坪井 清足
	同志社大学大学院総合政策科学研究科	教授	山下 淳

(五十音順)

### 4. 議 事

①第16回有識者委員会議事要旨の確認を行いました。

○第16回有識者委員会の議事要旨の確認

②提言(案)(I~IV)について、齋藤委員長が修正箇所を説明し確認を行いました。

○大和北道路有識者委員会 提言(案)

I 本委員会の設置目的とPIプロセスに即した審議の経過

II PIプロセスで得た人々の意見や要望

III 大和北道路のルート・構造案と評価の視点

IV 文化財の保護、地下水に与える影響、景観への配慮等に関する本委員会の基本的な考え方

③提言(案)(V)について、齋藤委員長が説明しました。

○大和北道路有識者委員会 提言(案)

V 大和北道路のルート・構造に関する本委員会の検討と総合評価

上記に関して次のような議論がありました。

・提言(案)(V)について、委員全員の合意が得られました。

④提言(案)(VI)について、齋藤委員長が説明しました。

○大和北道路有識者委員会 提言(案)

VI 大和北道路の計画化に向けての本委員会の推奨案

上記に関して次のような議論がありました。

・関係行政機関は関連道路整備をきちんと実施すること。

・提言(案)(VI)について、若干の修正後、委員全員の合意が得られました。

⑤大和北道路有識者委員会の終了に際して、委員長及び各委員より次のようなご発言がありました。

- ・交通機能面の分析の結果、中央エリア<sup>1</sup>が優位。費用便益比の点からも社会的な意義が大きい。
- ・高架案を除く中央エリア<sup>1</sup>の3つのルートは交通機能面での大きな差はない。地下水検討委員会、文化財検討委員会提言を踏まえた配慮事項により優劣がついている。
- ・実施にあたって遭遇する課題に、提言の内容を尊重して対処して頂きたい。
- ・アンケート結果8割近くの方が交通問題を訴え、大和北道路の整備を望んでいる。一方配慮事項について重く受け止め、配慮願いたい。
- ・景観の観点から平城宮跡と若草山の分断をさけることができた。今後計画が事業実施に移されるまでの間に、道路建設技術の進歩、社会情勢の変化等予想されるが、提言の趣旨を尊重して対応して欲しい。
- ・文化財検討委員会の提言を最大限尊重し、検討の早い時期に平城宮跡直下を避けた。羅城門以南までトンネルを延長することは、トンネル延長が大幅に5kmを超えるためできるだけトンネル延長をのばし現計画案になった。トンネルと地上部分の接合部分においてできるだけ面積が小さくなるように配慮し、必要となる調査面積を減らすべき。
- ・事業化にあたっての課題に対して、どのように配慮してゆくのか常に考えながら、事業を進めていく中で、その時々でのベストな対応に努めて欲しい。
- ・多種多様な意見をいただき、有識者委員会としての提言をとりまとめた。今後のPIプロセスの資料とするため今回の資料を整理し後進に活かして頂けるようにまとめることも重要。
- ・PIプロセスで得た、いろいろな意見、先行した二つの委員会の結論がクロスオーバーし、ある段階で方向性が見えてきた。3つの委員会の共通テーマは地下水で厳しい意見もあったが、専門家の客観的な目を尊重し、検討をすすめとりまとめることができた。
- ・今回1年以上かけて取り組み提言を出した。計画を策定するに際して1人でも多くの人々の理解が得られればと思う。
- ・今後の各種計画の策定に際し、PIプロセスの導入がされると思うが、失敗をおそれずに積極的に取り組んで欲しい。

⑥国土交通省近畿地方整備局に対して提言が提出されました。

以上